

K- 157

# 山形市埋蔵文化財調査年報

－平成14年度－

2004

山形市教育委員会





# **山形市埋蔵文化財調査年報**

**－平成14年度－**

平成16年3月

**山形市教育委員会**



## 序

山形市は、山形盆地の南部に位置し、馬見ヶ崎川や藏王山など水と緑に恵まれた自然豊かな環境にあります。東の奥羽山脈には、平安時代以降、慈覚大師の開基と伝わる国指定史跡・名勝「山寺」が所在し、市内の中心部には戦国武将最上義光の居城であった国指定史跡「山形城跡」が所在するなど、山形県内はもとより、東北の中心的地域として古くから栄えてきました。

市内には、国指定史跡「鳴遺跡」など、埋蔵文化財と呼ばれる地中に埋もれた文化財が300箇所以上確認されております。これらの文化財は、郷土の歴史や文化を理解する上で、欠くことのできない市民共有の歴史的財産となっています。

こうした状況のもと、近年は、市内各所において住民福祉の向上を目的とした各種社会整備に関する開発事業が増加しており、埋蔵文化財保護との調整の結果、遺跡の発掘調査に至る場合が多くなっています。また、国指定史跡「山形城跡」などの保存や整備を目的とした発掘調査も継続されているところです。

本書が、埋蔵文化財の保護と啓蒙のために、そして、皆様の郷土史探求の一助としてご活用いただければ、誠に幸いります。

最後になりましたが、調査にあたって、埋蔵文化財の保護に特段のご理解をいただき、発掘調査に多大なご協力をいただきました事業者や工事関係者の皆様並びに関係各位に、厚く御礼申し上げます。

平成16年3月

山形市教育委員会

教育長 大場 登



## 例　　言

- 1 本書は平成14年度に山形市教育委員会が実施した埋蔵文化財調査を総括したものである。
- 2 表面踏査・試掘調査については、本書をもって報告とし、発掘調査については、今後報告書を作成する予定のあるものについては、略述するにとどめた。また、既に報告書が刊行されているものについては割愛した。
- 3 本書の作成・執筆は、武田和宏・五十嵐貴久・植松薫・須藤英之・國井修が担当した。編集は國井修が担当した。
- 4 出土遺物、調査記録類については、山形市教育委員会が一括保管している。

## 凡　　例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は以下の通りである。

SD：溝跡・溝状遺構 SK：土坑 SE：井戸跡

- 2 本書で使用した地形図等は以下の通りである。

第1図 國土地理院発行 1：50,000地形図「山形」NJ-54-21-11(仙台11号)を1：100,000に縮小  
第4図 山形市発行 1：2,500國土基本図 X-QC 29-2 (山形広域都市計画図「天童大橋」)  
第5図 山形市発行 1：10,000「山形広域都市計画図 7」  
第6図 國土地理院発行 1：25,000地形図「笹谷峠」NJ-54-21-11-2 (仙台11号-2)  
第7図 山形市発行 1：10,000「山形広域都市計画図 6」  
第8図 山形市発行 1：10,000「山形広域都市計画図 5」を1：12,500に縮小  
第9図 山形市発行 1：2,500國土基本図 X-QC 67-2 (山形広域都市計画図「漆坊」)を1：5,000に縮小  
第10図 山形市発行 1：10,000「山形広域都市計画図 7」  
第11図 山形市発行 1：10,000「山形広域都市計画図 7」  
第12図 山形市発行 1：2,500國土基本図 X-QD 21-1・3 (山形広域都市計画図「奥之院」「山寺」)を1：3,000に縮小

- 3 遺構番号は現地調査段階での番号を踏襲している。
- 4 遺跡概要図・遺構配置図中の方位は真北を示している。

## 目 次

### I 埋蔵文化財保護の動向

- 1 平成14年度の調査概況 ..... (國井修) ..... 1

### II 調査の概要

- 1 史跡 山形城跡 ..... (五十嵐貴久) ..... 5  
2 試掘調査・立会調査 ..... (武田和宏・植松薰・須藤英之・國井修) ..... 9  
(1) 南志田遺跡  
(2) 上野遺跡  
(3) 八丁平遺跡  
(4) 山家橋  
(5) 城南町一丁目・山形城三の丸跡  
(6) 長谷堂城  
(7) 成沢城  
(8) 横手区遺跡  
(9) 名勝・史跡 山寺

## 表

- 表1 平成14年度埋蔵文化財調査一覧 ..... 2 表3 新規登録・変更遺跡一覧 ..... 4  
表2 埋蔵文化財発掘調査報告書一覧 ..... 4

## 挿 図

- 第1図 調査地点位置図 ..... 3 第7図 山家橋跡調査概要図 ..... 12  
第2図 史跡山形城跡発掘調査位置図 ..... 7 第8図 城南町一丁目・山形城三の丸跡  
第3図 史跡山形城跡本丸土塁地区  
造構平面図 ..... 8 調査概要図 ..... 14  
第4図 南志田遺跡調査概要図 ..... 9 第9図 長谷堂城跡調査概要図 ..... 15  
第5図 上野遺跡位置図 ..... 10 第10図 成沢城跡調査概要図 ..... 16  
第6図 八丁平遺跡位置図 ..... 11 第11図 横手区遺跡調査概要図 ..... 17  
第12図 史跡・名勝山寺調査概要図 ..... 18

## I 埋蔵文化財保護の動向

### 1 平成14年度の調査概況

平成14年度は、4件の発掘調査、10件の試掘調査、2件の表面踏査、6件の立会調査を実施している。平成14年度の調査状況は表1の通りである。また、これまで刊行した報告書の一覧は表2の通りである。

発掘調査では、学校改築工事、店舗建設、宅地造成に伴う緊急発掘調査と国指定史跡「山形城」の整備事業に伴う発掘調査を行っている。

学校改築工事に伴う緊急発掘調査では、山形城三の丸跡の発掘調査を実施している。一部ではあるが、山形城三の丸堀跡が確認され、位置を特定することが出来た。堀跡内からは、近世の遺物は殆ど出土せず、堀跡の構築時期を特定することは出来なかったが、覆土の堆積状況から、大きく4つの時期に区分することが出来た。調査成果については平成14年度中に報告書として刊行している。

店舗建設工事に伴う緊急発掘調査では、吉原Ⅱ遺跡の発掘調査を実施している。調査次数としては第3次調査となる。店舗の基礎部分のみの調査で、遺跡の詳細な検討は出来なかったが、これまでの調査と同様、8世紀末から9世紀中葉の掘立柱建物跡を主体とした集落構成が窺える。調査成果については、平成14年度中に報告書を刊行している。

宅地造成に伴う緊急発掘調査では、試掘調査により新たに発見された、南志田遺跡の調査を平成15年度にかけて実施している。調査では8世紀中葉から9世紀後半にかけての堅穴住居が20棟以上確認され、多量の土器の他、袋状鉄斧、鉄製紡錘車、鉄鎌などの鉄製品が出土している。調査成果については、現在整理中である。

その他、国指定史跡「山形城跡」の復原整備に係わる調査を継続して実施している。堀跡の調査の他に、本丸郭内の調査が実施され、古墳時代から近世にかけての遺構及び遺物が確認されている。

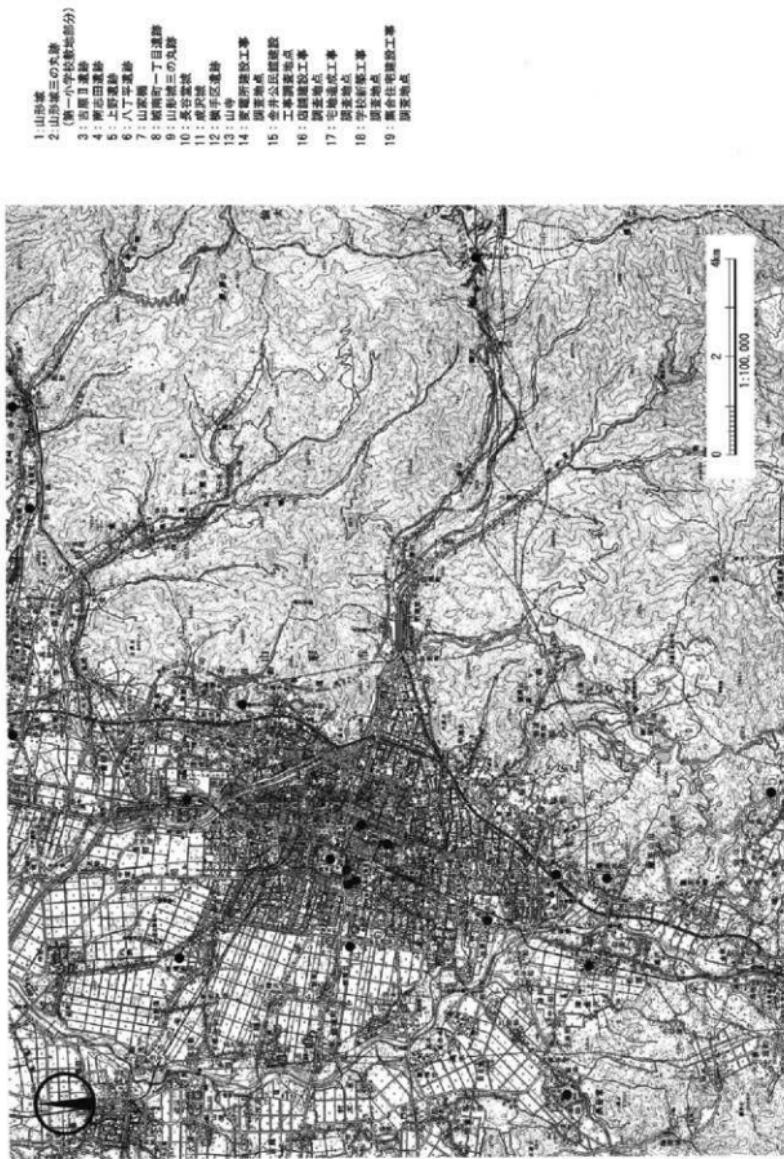
試掘調査、立会調査では、山形駅西地区画整理事業、公園整備事業、宅地造成事業、変電所建設工事、公民館建設工事、店舗建設工事、学校改築工事に伴う調査を実施し、前述の通り、南志田遺跡を新たに発見している。

表面踏査では、上野遺跡の範囲変更と八丁平遺跡を新たに登録している。上野遺跡は縄文時代中期中葉の遺跡として登録されていたが、その他縄文時代後期及び晩期にわたることが確認された。八丁平遺跡は、過去に山形県立山形中央高等学校や山形県総合学術調査会により調査が行われていたが、正式な登録が行われていなかったことから、登録を行った。

なお、平成14年度に山形市教育委員会で実施した調査により、範囲変更及び新規に発見された遺跡は表3の通りである。

表1 平成14年度埋蔵文化財調査一覧

No.	遺跡名	調査地番等	事業名	調査区分	県道跡番号 (中世城郭 遺跡番号)	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	担当者	備考
1	山形城	霞城町3 他	史跡山形城跡 本丸大手門復元整備事業	発掘調査 (201-001)	1 (201-001)	2002/7/1~8/23 2002/9/9~12/13	2850	五十嵐貴久 高橋 拓	
2	山形城 三の丸	本町5-19	山形市立第一 小学校校舎改築工事	発掘調査 (201-002)		2002/6/10~7/26	1560	國井 修	平成14年度報告書刊行。
3	吉原Ⅱ	三つ江	店舗建設工事	発掘調査 平成8年度新規		2002/6/27~7/26	184	須藤 國井 英之 修	平成14年度報告書刊行。
4	南志田	大字漆山字 南志田・大段	宅地造成	試掘調査 発掘調査 平成14年度新規		2002/11/19~21 2003/2/27~5/2	2300	國井 修 植松 高橋 英之 宽泰 高橋	
5	上野	藏王上野		表面踏査 64		2002/10		武田 國井 和宏 修	範囲の変更。
6	八丁平	大字閑沢字 桂沢		表面踏査 平成14年度新規		2002/8/29		武田 國井 和宏 修	別名: 笹谷A
7	山家郷	上山家町野 伏山710-2 ・711-1	携帯電話基地 局建設	試掘調査 (201-018)	28 (201-018)	2002/5/16		國井 小野 修 寛泰	
8	城南町 一丁目	城南町一 丁目	山形駅西土地 区整理事業	試掘調査 平成9年度新規		2002/9/26		國井 修 須藤 英之	
9	山形城 三の丸	城南町二丁 目	山形駅西土地 区整理事業	試掘調査 (201-002)		2002/10/10		國井 修 須藤 英之	
		城南町三丁 目6-24	山形市公共下水道(爾末)マンホール整備事業	立会調査		2002/10/16 2002/10/29	16	須藤 岩井 英之 良太	
		城南町二丁 目5-31	山形市公共下水道 水管渠設工事(2)	立会調査		2003/1/29 2003/3/24	16	須藤 岩井 英之 良太	
10	長谷堂城	大字長谷堂 字城山	公園造成	立会調査 104 (201-011)		2002/11/8 2002/12/4 2002/12/10	4	須藤 國井 英之 修	
11	成沢城	藏王成沢字 船山	公園造成	立会調査 63 (201-014)		2002/11/25 2002/11/27 2002/12/3	132	須藤 英之	
12	横手区	大字松原 785	山形市公共下水道 A-301工区(汚水 流開設工事)	立会調査 75		2002/11/29	50	須藤 英之	
13	山寺	大字山寺 4456-1	公衆トイレ改 築	立会調査		2002/11/27		武田 和宏	
14		石間 20-5-6	変電所建設工 事	試掘調査		2002/4/23		國井 修 岩井 良太	
15		大字陣場字 熊ノ木903・ 904	金井公民館建 設	試掘調査		2002/6/4		國井 修 岩井 良太 小野 寛泰	
16		衝田四丁目 330-1 他	店舗建設工事	試掘調査		2002/10/16・17		國井 修 須藤 英之	
17		大字山寺字 赤石・中地 麓	宅地造成	試掘調査		2002/10/28~11/1		國井 修 須藤 英之	中地蔵遺跡(県道 跡番号: 平成2年 度新規)に隣接。
18		香澄町三丁 目635-9	学校新築	試掘調査		2002/12/10~12		國井 修 須藤 英之	山形城三の丸堀 跡推定地に隣接。
19		千歳二丁目 1507-1・4	集合住宅建設	試掘調査		2002/2/21		植松 國井 薰 修	落合駅(県道跡番 号: 131)に近接。



第1図 調査地点位置図

表2 埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

集番号	報告書名	発行年月日	発行機関	備考
1	熊ノ前遺跡第1次発掘調査報告書	1975/5	山形市教育委員会	
2	熊ノ前遺跡第3次発掘調査報告書	1978/11	山形市教育委員会	
3	山形城跡発掘調査報告書	1981/3	山形市教育委員会	本丸及び二の丸部分
4	菅沢二号墳発掘調査報告書	1987	山形市教育委員会	
5	菅沢2号墳	1991	山形市教育委員会	
6	崎遺跡発掘調査概報	1994	山形市教育委員会	範囲確認調査の報告
7	馬上台遺跡発掘調査報告書	1995/3	山形市教育委員会	
8	山形城本丸発掘調査概報	1996/3	山形市教育委員会	平成6・7年度調査概報
9	中野目Ⅰ遺跡中野目Ⅱ遺跡発掘調査報告書	2001/3/31	特殊法人日本労働者住宅協会 山形県労働者住宅生活協同組合 山形市教育委員会	
10	吉原Ⅰ遺跡発掘調査報告書	2001/3/31	株式会社カワチ薬品 山形市教育委員会	店舗建設に伴う発掘調査報告書
11	吉原Ⅲ遺跡発掘調査報告書	2001/3/31	株式会社東北ケーズ電気 山形市教育委員会	店舗建設に伴う発掘調査報告書
12	一ノ坪遺跡発掘調査報告書	2001/11/30	山形市教育委員会 山形考古学研究所	
13	吉原Ⅵ遺跡発掘調査報告書	2002/3/31	東松山ミニサワホ本一ム 田形市建設教育委員会	
14	石田遺跡上谷柏遺跡発掘調査報告書	2002/6/30	東北電力株式会社 山形市教育委員会	
15	山形城三の丸跡(山形市立第一小学校敷地内)発掘調査報告書	2003/3/31	山形市教育委員会	
16	吉原Ⅱ遺跡第3次発掘調査報告書	2003/3/31	株式会社二ラク 山形市教育委員会	店舗建設に伴う発掘調査報告書

表3 新規登録・変更遺跡一覧

遺跡名	地番等	遺跡番号	変更内容	1:25,000地形図	地形図番号	備考
南志田	大字漆山字南志田・大段	平成14年度新規	新規発見	山形北部	NJ-54-21-11-3	
上野	藏王上野	64	範囲の変更	山形南部	NJ-54-21-11-4	
八丁平	大字圓沢字桂沢	平成14年度新規	新規発見	笛谷峠	NJ-54-21-11-2	別称：笛谷A

## II 調査の概要

### 1 史跡 山形城跡

#### (1) 調査要項

遺跡番号 県遺跡番号1 遺跡略号 KJO 所在地 山形市霞城町3番地他（霞城公園）

調査原因 史跡山形城跡本丸大手門復原整備事業 調査面積 2,850m<sup>2</sup>

調査期間 2002/7/1～8/23, 9/9～12/13 調査担当者 五十嵐貴久 高橋拓

#### (2) 調査の経緯

山形城跡は、昭和61（1986）年に国史跡指定を受け、平成3（1991）年には「二の丸東大手門」の復原が完了した。その後、整備事業計画に基づき本丸の整備の基礎資料を得るために調査が進められてきた（武田 1996『山形城跡本丸堀発掘調査概報』山形市教育委員会）。平成8年からは本丸大手門の復原整備を目的とした調査が行われ、その結果をもとに大手門石垣の修復工事が平成10年度より進められている。発掘調査も石垣修復工事に間連続しており、平成14年度は本丸（東）土塁復原範囲における造構確認調査及び本丸大手橋造構確認調査を実施した。

#### (3) 遺跡の立地と環境

山形城跡は蔵王山系を源とする馬見ヶ崎川扇状地の扇端部湧水帯にあり、市街地のほぼ中央に位置する。城跡は馬見ヶ崎川の氾濫による砂礫層を基盤とした平地に立地しており、現在までの発掘調査により縄文時代以来の造構・遺物が検出されている例からも人々の拠点の生活域であった。調査地点は近現代の擾乱により旧地表等は確認出来ないが、氾濫等による河川砂と腐食質土層との互層状の堆積層が上位に存在し、下層は砂礫層が厚さ約4m堆積する状態で、本丸堀の法面（側面）を支持するのもこの砂礫層である。現在、山形城跡は文化・体育施設等が配備された都市公園機能を有すると共に、市街地における広大な綠地として市民の憩いの場として利用され、かつ現在史跡整備として近世山形城の姿が復原されつつある。

#### (4) 遺跡の歴史的経緯

山形城跡は南北朝期の延文2（1356）年、足利一門の斯波氏により築かれたと伝わる。初代城主は斯波兼頼で、後に最上氏を名乗り第11代最上義光の文禄・慶長期（1592～1614年）に現在最上時代山形城下絵図として残る城下町に発展した。最上氏最大57万石の居城として三の丸までの輪郭式の広大な城であったが、元和8（1622）年島居氏が入部の際に本丸・二の丸内を改修したと伝えられ、現在の二の丸の形に整えられた。本丸堀は明治時代に旧陸軍の兵営地が設置される際埋め立てられ、その後造構は全く不明であったが、発掘調査により徐々にその姿が明らかになってきている。

#### (5) 検出された造構と遺物

今年度の調査範囲を本丸郭東側土塁復原地点に「本丸東土塁地区」と、「本丸大手橋地区」及び「本丸東堀地区」と呼び、以下逐地区ごとに詳細を述べる。

**本丸東土塁地区：**大手門石垣の北側に続く土塁推定復原予定範囲における地下造構の確認調査を実施し、ピット302基・土坑203基・溝跡22条・竪穴住居跡1棟・性格不明造構1基・井戸跡3基の

ほか、多数の土坑重複遺構を「土坑群」と称し 5基確認した。土坑・土坑群からは「かわらけ」が多量に出土した。細片資料が多く、多量の炭・灰等とともに廃棄された状況を窺わせる。殆どが口クロ成形によるもので、なかには煤痕が付き灯明皿に使用されたものもある。また、SK02090より宝塔の一部（相輪）のみが出土した。凝灰岩製で破折した状態で一部被熱した部分もみられる。共伴する遺物はかわらけのみである。

井戸跡 3基はいずれも石組井戸で、SE02001が最も規模が大きく石組外径約18m（一間）・掘り方直径約4.5m（二間半）を測る。確認面より約3m深までは調査を行ったが底部は未確認である。位置は大手門をぐぐった本丸郭内で西側櫓台石垣に近く石垣遺構及び復原範囲との重複もないため、江戸時代の遺構と考えている。他の2基は規模も小さく確認面からの深さ約2mで時期的に古い可能性がある。

溝跡は中世と古墳時代の2時期に分かれる。中世の溝跡からはかわらけ破片・動物遺体（ウマ下顎骨など）が出土した。掘り込みは確認面から浅く約40~60cmを測る。古墳時代の溝跡からは土師器の小型丸底壺などが出土している。また、明治～昭和初期と推測する溝跡はほぼ全面にわたり陶磁器・ガラス製品・屋根瓦類・金属製スプーン・薬瓶等が廃棄された状態で発見されている。

土坑には土坑墓1基と炉（屋外炉？）1基を含む。土坑墓は仰臥屈葬（頭位北西・西向）で人骨が出土したが、副葬品はなく中世墓と推測している。このほか、人骨は2体分出土し1体は後世の攪乱を受け歯部のみの出土で、もう1体は横臥伸展葬（頭位北西）で副葬品はない。いずれも中世墓と推定している。炉跡は地面に掘り込んだもので焼成部は石組で内部堆積層は被熱し赤褐色を呈し、また若干の炭化物と灰を含む。

堅穴住居跡は奈良・平安時代と推測する。隅丸方形プランで長軸方位は北を指す。またカマドを西壁に有し柱穴はなく壁直下に周溝のみある。出土遺物は須恵器碗・土師器甕等である。堅穴住居跡は以前約10m南にて1棟確認しており今回2棟目である。

検出された遺構群の年代観を考察するため、中世の遺構のいくつかを対象とした年代測定を行い、結果は13世紀まで遡るもののが存在することが明らかとなった。江戸時代中期以降の陶磁器を殆ど含まないことから下限を17世紀代とする400年間にわたることが明らかとなった。

**本丸大手橋地区：**本丸大手橋地区は、平成11年度に続くものである。前回は桁行7列・梁行3列の合計21本からなる木橋であることと、中列柱の設置方法は土中への打ち込み杭であったことが確認された。今回は北柱列を発掘し、橋遺構の確認に努めた。北柱列も木柱は尖端削出の打ち込み杭で、挿り鉢状の地形の埋土中に打ち込んだ（A種）4ヵ所と、浅い地山砂礫層に直接打ち込んだ（B種）3ヵ所とが確認された。

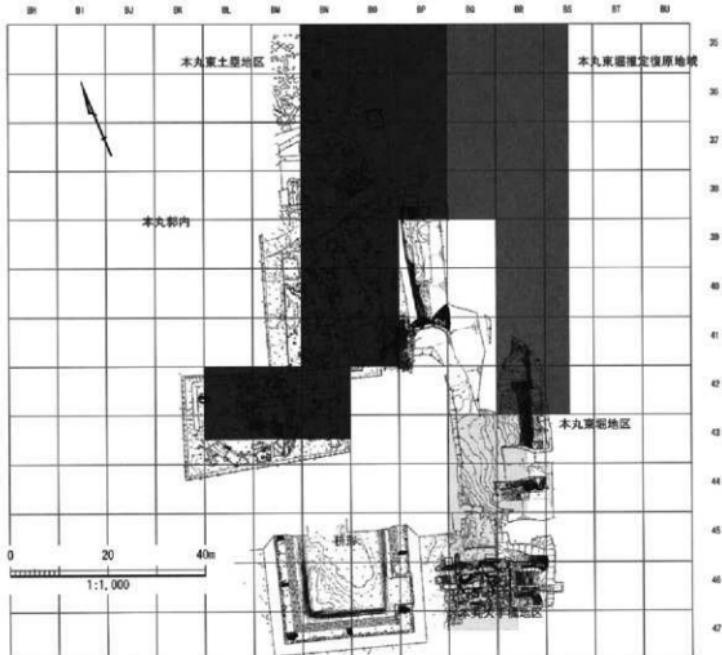
また、A種柱の中程に横位沈線が線刻された痕跡が発見された。これらは同種の柱殆どについておりかつ埋土の上面にほぼ位置することが判明した。このことから、打ち込みの際の目印として施された可能性が考えられる。また、A種柱周辺の埋土からキセル（吸口・雁首）・ノミ・小柄・古錢（寛永通宝）が出土し地鎮敵要素の強い状況を示している。

**本丸東堀地区：**本丸東堀地区は、平成13年度に続くものである。堀内堆積土の上層（江戸末～明

治期)の発掘調査を継続し、瓦・陶磁器・石製品。土製品等が出土した。また、東堀の北側堀埋土(堀埋め立ての際の土星崩落土砂堆積層)を堆積土に影響のない範囲で重機による掘削を行い本丸東堀の様相を復原的に現した。なお、堀内堆積土・土星等埋土については発掘調査の対象とし今後調査を継続する予定である。

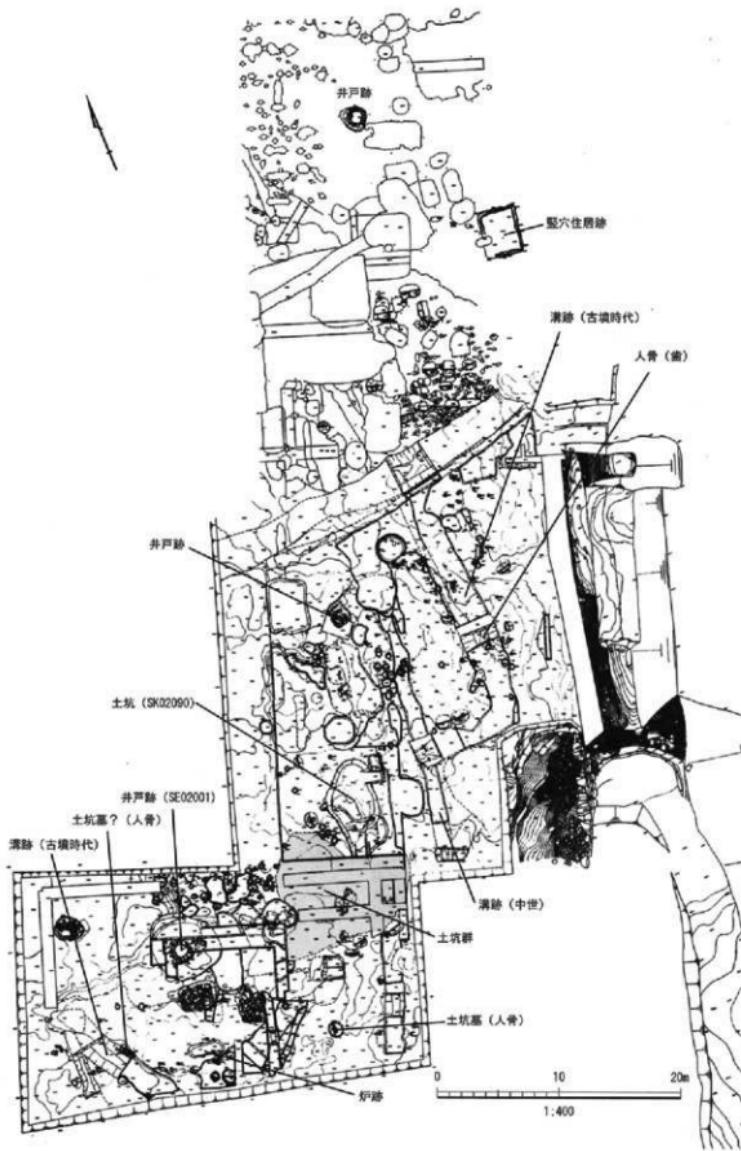
#### (6) まとめ

今回の調査は、山形城本丸郭に対する本格的な初の発掘調査である。元和年間以降の山形城に直接係わる造構としては井戸跡が1基確認されたのみで、中世から戦国期を窺わせる造構群の確認が出来たことの意義は大きい。しかしながら、それら造構が必ずしも城郭との関連性の強いものとは認識するには至らず、今後の調査に委ねられることとなった。また、中世以前の古墳～平安時代に至る造構群の発見はこの地が生活拠点として相応しい位置にあったことを示す貴重な発見であった。



第2図 史跡山形城跡発掘調査位置図

## II 調査の概要



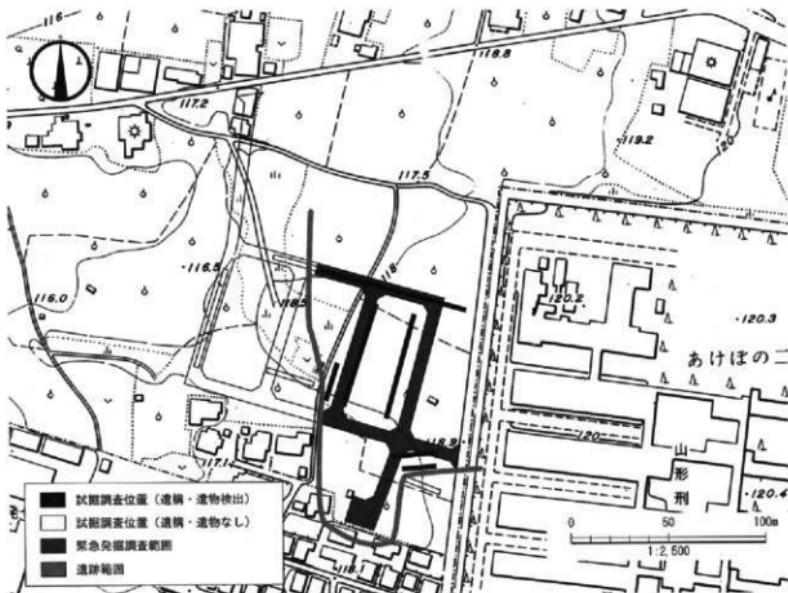
第3図 史跡山形城跡本丸土壘地区遺構平面図

## 2 試掘調査・立会調査

### (1) 南志田遺跡

本遺跡は民間宅地造成事業に伴う試掘調査により新たに発見された遺跡である。山形市の北東部、漆山地区に所在し、立谷川の形成する扇状地の扇端部に位置する。調査時の地目は果樹園で、標高は約118mを測る。南西約500mには、平成11年度に山形県埋蔵文化財センターが、調査を実施した梅ノ木遺跡（古墳～平安時代）、北西約500mには、同じく平成11年度に山形県埋蔵文化財センターが、平成12年度に山形市教育委員会が調査を実施した一ノ坪遺跡（縄文晩期～平安時代）が所在する。

試掘調査では、開発区域の内、街区道路部分を中心に設定した計9本の試掘坑を重機により掘り下げ、遺構・遺物の確認を行った。その結果、平安期の多数の竪穴住居跡とそれに伴う遺物が出土したことから、文化財保護法に基づく届出を行い、周知の遺跡として登録された。これらの経緯を踏まえ、関係機関で遺跡の取り扱いについて協議を行った結果、遺跡の破壊が免れない街区道路部分について、工事に先立ち緊急発掘調査を実施することで合意を得た。発掘調査は、平成15年2月27日～5月2日まで実施された。その結果、奈良・平安時代の竪穴住居跡が20棟以上確認され、整理箱にして44箱の遺物が出土した。調査成果については、現在整理中である。



第4図 南志田遺跡調査概要図

## (2) 上野遺跡

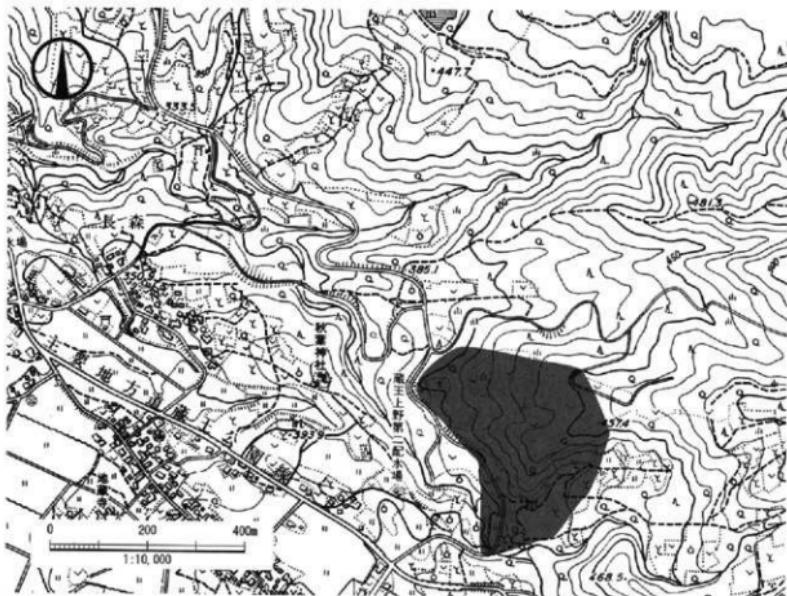
本遺跡は、山形市蔵王上野に所在する。縄文時代中期の遺跡として知られており、本遺跡から採集された大木8 b式期の土偶（山形大学附属博物館蔵）は、山形市史等に掲載されている。

調査は、平成15年度刊行の「図説山形市の歴史と文化」に係わる取材の際に実施したものである。取材は個人蔵の遺物を確認するためにおこなったものだが、その際に遺物の出土地点へ赴き、表面踏査を実施した。その結果、採集地周辺の遺物の散布状況及び地形観察から、本遺跡の範囲が広がることが確認された。

個人蔵の遺物は、下部単孔土器、スタンプ形度製品、磨製石斧等で、縄文時代後期後葉と判断される。また、蔵王第二小学校にも、遺跡周辺で採集された遺物が保管されており、それら遺物は、文様構成等から、大木10式期及び縄文晚期の遺物と判断された。

また、過去の調査事例を調べた結果、昭和37年に、山形県文化財保護協会により表面踏査が実施されており、調査者である故柏倉亮吉氏により、その報告がなされている。採集された遺物の詳細は不明であるが、報告によれば、縄文時代後期から晚期のものとされている。

以上の調査結果から、遺跡は、これまで認識されていた範囲よりさらに北側へ広がることが確認され、時代も、縄文時代中期中葉から晩期にわたるものと判断される。

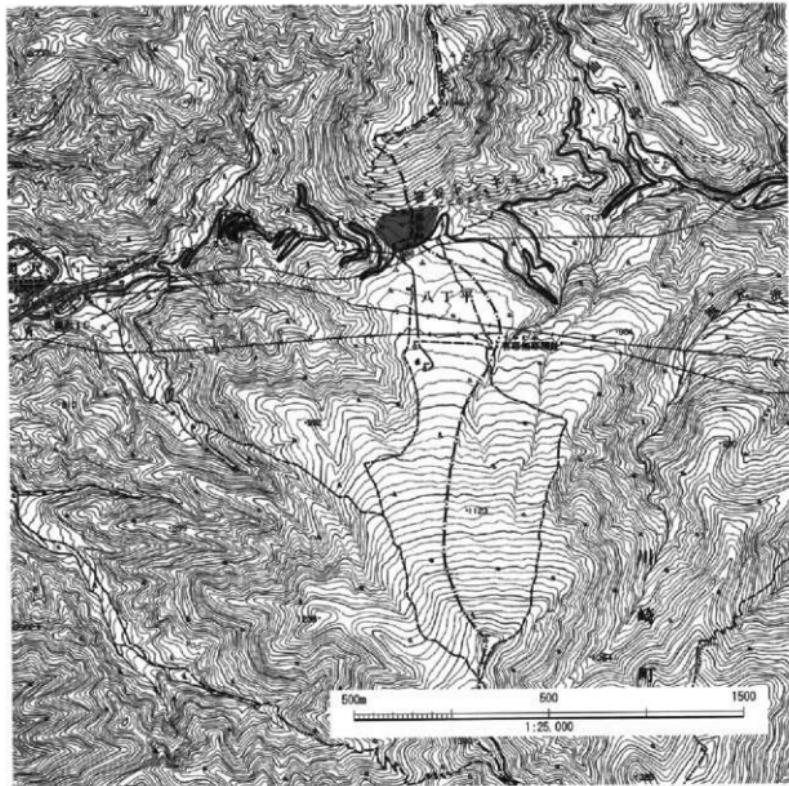


第5図 上野遺跡位置図

## (3) 八丁平遺跡

本遺跡は、蔵王山頂付近、宮城県川崎町との境に位置する。周辺の地目は、雑草地、駐車場、登山道で、標高は約900mを測る。調査は、平成15年度刊行の「図説山形市の歴史と文化」に係わる取材の際に実施したものである。調査では、頁岩製の石巒1点とフレイク2点を採集した。その後、山形中央高校郷土研究部により同一地域の調査が実施されていたことが判明し、同校で資料調査を行った。出土遺物は校舎改築の際に紛失したとのことであったので、郷土研究部誌及び生徒会雑誌等から、出土遺物は縄文晩期大洞B～BC式期のものと判断された。これら調査結果から、遺跡は縄文時代晩期のものと推測される。山形県総合学術調査会刊行「蔵王連峰」では、笹谷A遺跡として紹介されている。

以上の経緯を踏まえ、これまで正規の登録がなされていないことから、平成14年度新規発見の遺跡として届出を行った。



第6図 八丁平遺跡位置図

## (4) 山家 標

本道路は、山形市西部、奥羽山脈東麓の丘陵に位置する。戦国大名最上義光の家臣である山家氏の居城とされる。

本調査は、携帯電話基地局建設に伴い実施したものである。工事予定区域内に任意に4箇所の試掘坑を設定し、人力で掘り下げ、遺構・遺物の確認を行った。その結果、いずれの試掘坑も表土直下が、凝灰岩の礫層となり、遺構・遺物とともに、全く確認されなかつた。

以上の調査結果から、工事予定地内には、埋蔵文化財は所在しないと判断される。



第7図 山家標跡調査概要図

### (5) 城南町一丁目遺跡・山形城三の丸跡

城南町一丁目遺跡は、山形駅西口、馬見ヶ崎川の形成した扇状地の扇端部に立地し、標高約125mを測る。遺跡は、平成9年度より、山形県教育委員会、山形県埋蔵文化財センター、山形市教育委員会がそれぞれ調査を実施している。

山形城三の丸跡は、現在の山形市中心市街地をほぼ囲繞し、南北約1.6km、東西約1.5kmの規模を有する。三の丸土壘及び堀跡は現存している部分もあり、その一部は国指定史跡となっている。また、平成13年度には、山形駅西土地区画整理事業、平成14年度には山形市立第一小学校校舎改築工事に伴い、堀跡の一部を調査している。

今回の調査は、山形駅西土地区画整理事業、山形市公共下水道（雨水）マンホール築造事業及び山形市公共下水道管渠移設工事(2)敷設事業に伴い実施されたものである。以下、事業毎にその概要を記す。

#### 山形駅西土地区画整理事業

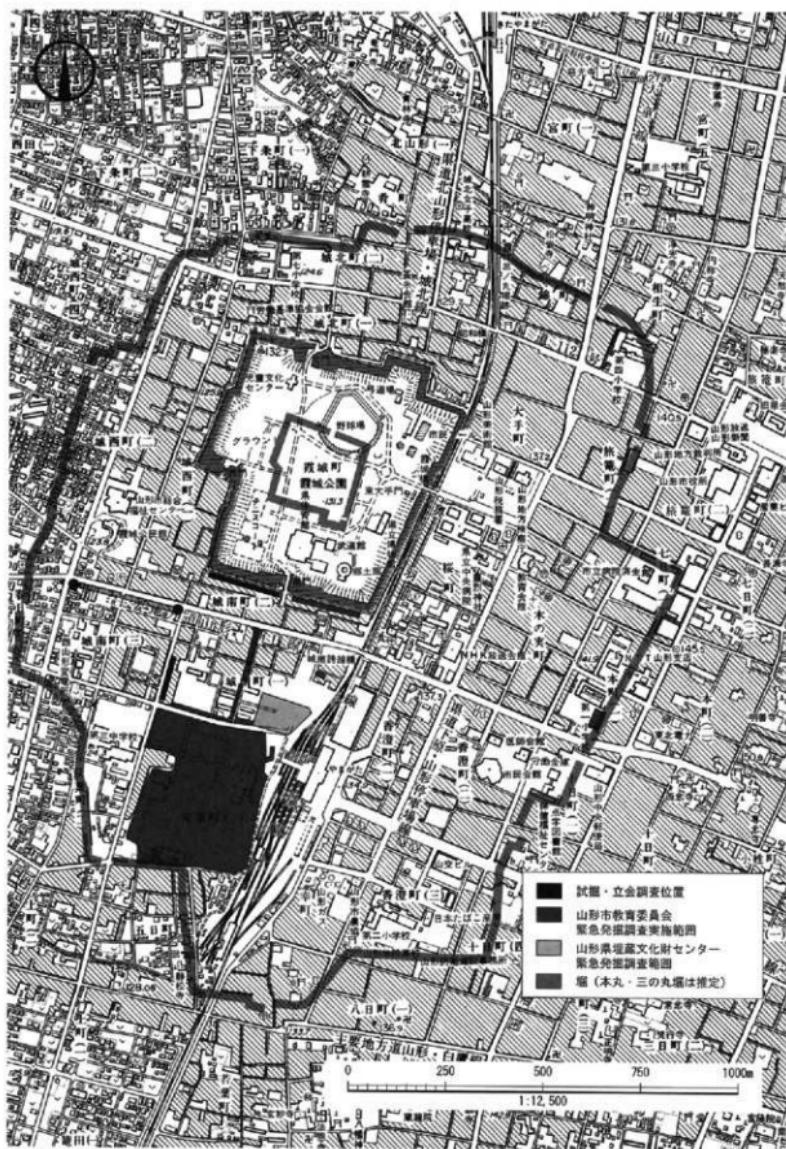
事業に伴う道路拡幅及び建設部分について試掘調査を実施した。事業予定地は、城南町一丁目遺跡隣接し、山形城三の丸の範囲内にあたる。調査では、事業予定地に任意に設定した試掘坑を重機で掘り下げ、遺構・遺物の確認を行った。その結果、調査地点1では、表土下から、褐色～黒色粘土及び砂が堆積しており、地山層と判断される現地表下約120cmの砂層においては、遺構と判断される土色変化は確認されなかった。また遺物も全く出土しなかった。平成11年度及び平成13年度に実施された城南町一丁目遺跡の調査においても、今回の調査区域付近では全く遺構は確認されておらず、また、これまでの調査成果からも城南町一丁目遺跡の範囲外と判断される。調査地点2では、表土（建築物基礎埋設層）直下は、砂礫層となり、遺構・遺物とともに確認されなかった。

#### 山形市公共下水道（雨水）マンホール築造事業

開発区域が狭小であったため、工事と並行して立会調査を実施した。調査では現地表より1m60cm程度の深さまで重機による掘り下げを行った。その結果、現地表から1m20cm程度の深さまでは建設廃材等によって埋め立てられており、その下層に40cmほど黒色シルト層が確認された。その下層の地山層と思われる灰白色シルト層において人力により面精査を行ったが、遺構と判断される土色変化は確認されず、遺物も全く出土しなかった。

#### 山形市公共下水道管渠移設工事(2)敷設事業

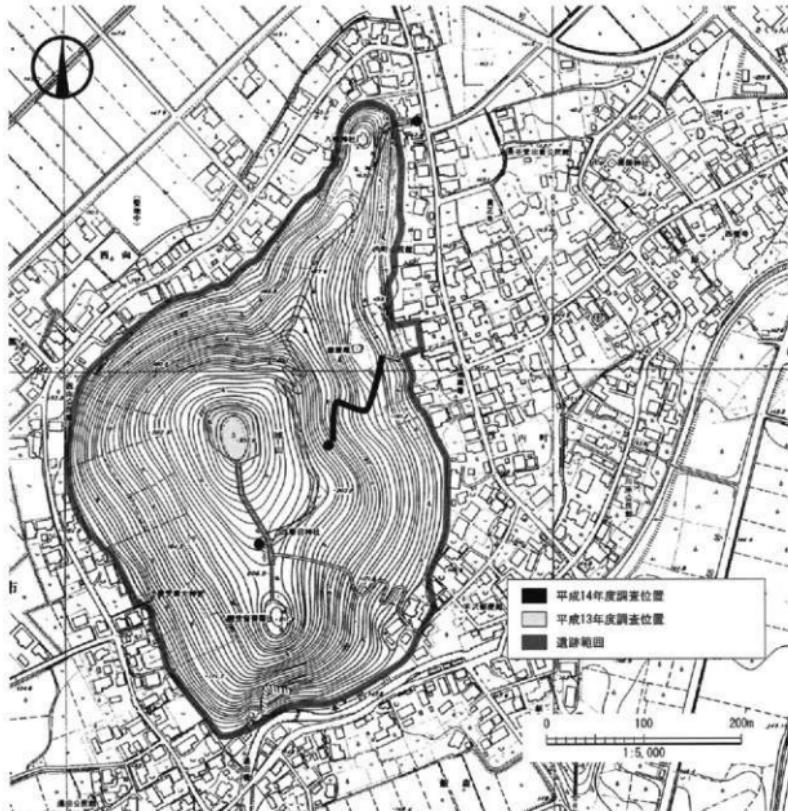
現地表より80cm程度の深さまで重機による掘り下げを行ったところ、地山層と思われる黄白色シルト層を確認し、人力による面精査を行った。結果、近世平瓦片一片が出土し、自然河川と考えられる細砂質シルトの流路を確認した。自然河川は非常に浅く、遺物も確認されなかった。



第8図 城南町一丁目・山形城三の丸跡調査概要図

## (6) 長谷堂城

長谷堂城は、山形市の南西部に位置する標高約200mの独立丘に築城されており、1600年の上杉方直江兼続と最上義光方が戦った出羽合戦の舞台として著名である。かつては、丘を土塁及び水濠が囲んでいたと伝えられている。長谷堂城では、現在、山形市都市開発部公園緑地課が主体となり、市民のレクリエーションの場としての活用を図ることを目的とした公園整備事業が進められている。この整備に伴い昨年度は、園路整備、転落防止柵設置等が行われ、これらに伴う立会調査を実施している。本年度は、維持して、園路整備、標柱設置、車止め設置が行われることとなり、工事実施面積が狭小なことから、工事の進捗に合わせて立会調査を実施した。各工事箇所において掘削時に立会を行ったが、いずれの箇所からも遺構・遺物は確認されなかった。また、工事による掘削も軽微なもので埋蔵文化財に対する影響は殆どないと判断される。

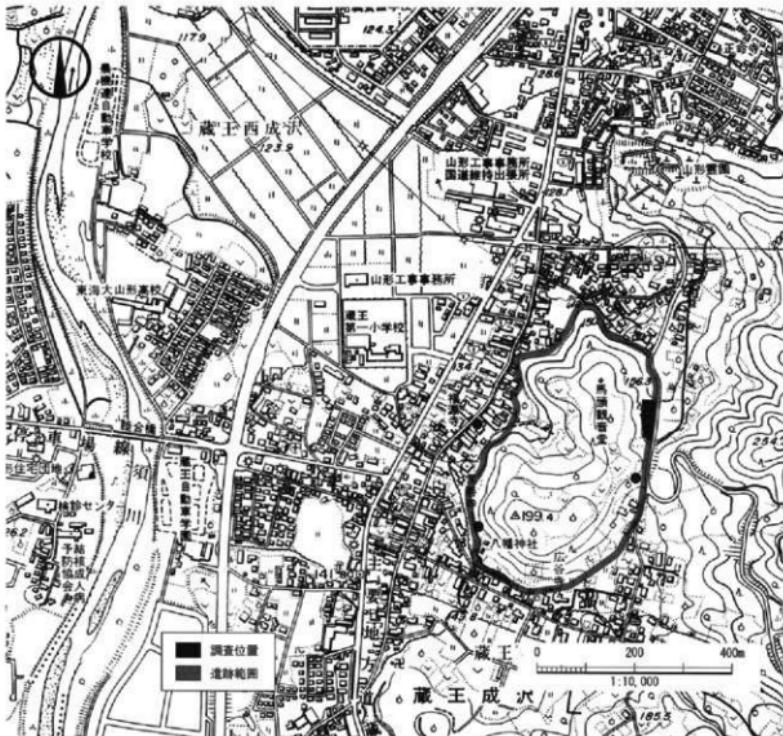


第9図 長谷堂城跡調査概要図

## (7) 成沢城

成沢城は、山形市の南東部、奥羽山脈の標高約200mの山上に築城されている。城跡周辺には、城下町の雰囲気を色濃く残す町並みが現存している。

現在、山形市都市開発部公園緑地課が主体となり、市民のレクリエーションの場としての活用を目的とした公園整備事業が進められている。本年度の工事箇所は面積が狭小なことから、工事の進捗に合わせて立会調査を実施した。工事箇所は、東側斜面の転落防止柵、駐車場及び西側の2箇所の案内板設置箇所である。各工事箇所において、人力及び重機による表土掘削及び立木伐採工事に合わせて遺構の有無を確認した。その結果、いずれの箇所からも遺構・遺物は確認されなかった。また、工事による掘削も軽微なもので埋蔵文化財に対する影響は殆どないと判断される。



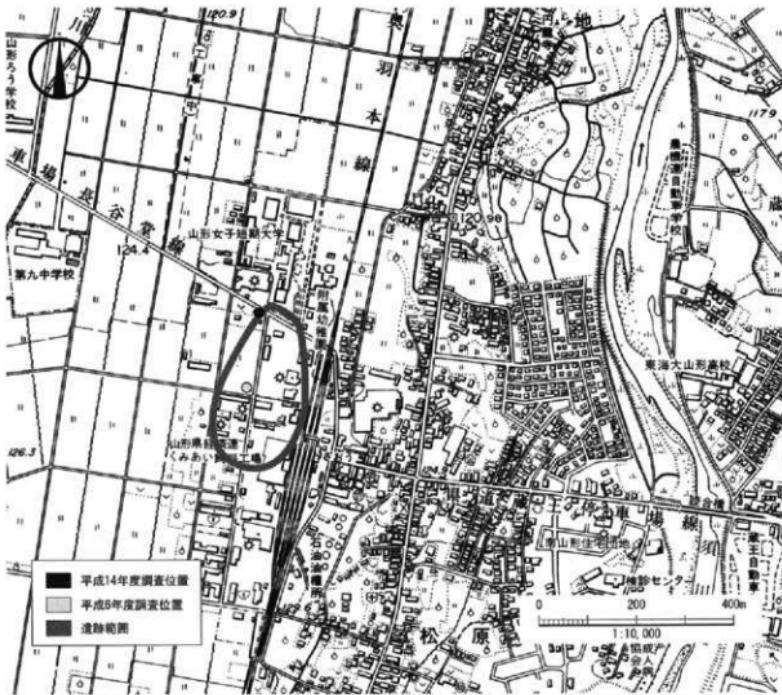
第10図 成沢城跡調査概要図

### (8) 横手区遺跡

山形市の南西部、大字松原地区に所在し、須川左岸の自然堤防上に立地する。調査時の地目は水田、宅地及び工場敷地で、標高は焼く129mを測る。かつて側溝敷設の際に石窯炉状の遺構が検出され、その中から土師器及び土師質人形が出土したと言われている。また、金銅製小仏像や仏具が出土したというが、詳細は不明である。

本遺跡近傍で、山形市下水道部建設課により山形市公共下水道 A-304工区（汚水・流闇）敷設工事事業が計画され、事業予定地の一部が本遺跡北端にかかると判断された。掘削範囲が狭小で、深度が現地表より5mまでと極めて深いことから、工事の進捗に合わせて立会調査を実施した。

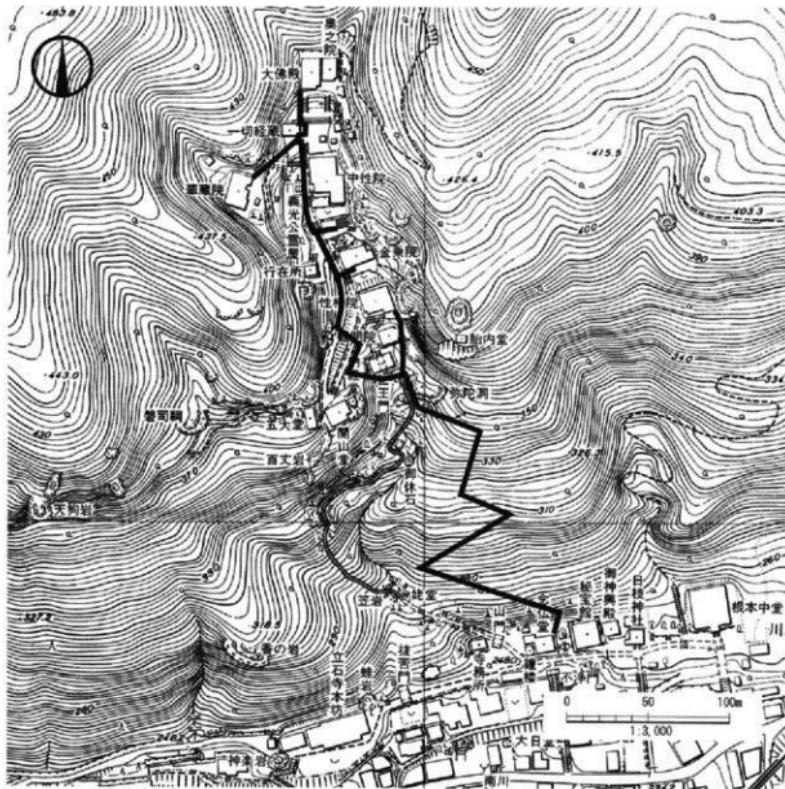
結果、事業実施範囲内において現地表より2~3mの深さまで重機により掘削を行ったが、表土以下は非常に粘性の強い軟弱な黒色粘土層が堆積していた。遺構・遺物とも全く確認されなかった。平成6年度に今回の調査地点南側約100mの地点で実施した試掘調査では、表土下で砂層が確認されている。よって、今回の調査地点は、須川の形成した自然堤防西側に広がる後背湿地部分にあたると判断される。以上の調査結果から、事業予定地は遺跡範囲外と判断される。



第11図 横手区遺跡調査概要図

## (9) 名勝・史跡 山寺

山寺は、貞觀二(860)年に慈覺大師が開基したと云われる東北有数の古刹であり、国の名勝・史跡に指定されている。本年度は、下水管渠工事及び既設観光トイレの改築工事に伴い立会調査を実施した。工事掘削の際に、遺構の有無の確認を行ったが、遺構・遺物ともに検出されず、工事が文化財に対する影響もほとんどないと判断される。



第12図 史跡・名勝山寺調査概要図

---

**山形市埋蔵文化財調査年報**

**平成 14 年 度**

2004年 3月31日発行

発行 山形市教育委員会

〒990-8540 山形市旅籠町二丁目3番25号

Tel023-641-1212

印刷 口口二一印刷(山形福祉工場)

〒990-2322 山形市桜田南391-2

Tel023-641-1136

---

